

第二十三回

解
説

京の会

鈴木 多美

(イヤホンガイド解説者)

菅原伝授手習鑑

寺子屋の段 浄瑠璃 竹本 越京

三味線 鶴澤津賀花



竹本越京

©福田知弘

二〇二五年十月二十五日 (土) 午後二時半開演

(二時開場／四時十五分終演予定)

雑司が谷音楽堂

TEL 03 (5960) 4515

入場料 前売 二千五百円／当日 三千円 (全自由席)

チケットお申込み・お問い合わせ 090 (3809) 0516 竹本



koshikyo.ketai140703@ezweb.ne.jp

菅原伝授手習鑑 寺子屋の段

「これまで」右大臣菅原道真（菅丞相）は政敵の藤原時平の讒言によつて流罪となる。さらに時平は道真の長男である菅秀才をも探し出して抹殺しようと謀る。道真の旧臣武部源藏は寺子屋を開きながら若君菅秀才を我が子として育てているが、時平に知られて首を討てと命令される。

「あらすじ」源蔵は、今日寺入りしたばかりの子供の首を討ち、検分役の松王丸はそれを菅秀才の首と見定めて帰る。そこに子供の母親が戻り、切り付ける源蔵に、身代わりを覚悟で連れて来たと言う。松王丸も現れ、子供は実は自分の子で、心ならずも時平に従っていたが、やっと丞相に恩を報ずる事が出来たと語る。北嵯峨で御台を救い出したのも実は松王丸で、若君と親子の対面をする。松王丸夫婦は我が子の亡骸を若君として野辺の送りをする。



地下鉄副都心線「雑司が谷駅」3番出口より（目白通り口）徒歩5分
JR「目白駅」下車都バス白61系統 新宿駅西口行高田1丁目下車3分